

# 北海道ファミリーハウス通信

2003・8月 2

発行 北海道ファミリーハウス

## 社会的有用労働

北海道ファミリーハウス

副理事長

作田 和幸

一環といていい  
だろう。そこに芽  
生えているのは賃  
金を得ることを第

一義的な目的とし

ない労働、しかし、  
社会的には欠かせない有用な労働  
である。

社会的有用労働の場で活動する  
多くの人々は、無償の労働であつて  
もそこで仲間と一緒に活動するこ

とよつて生き甲斐、あるいはなに  
か新しくやり遂げたことの達成感  
を味わうことが出来る。おカネは得  
られないが、心の中に大きな喜びと  
満足感を得られる。

このような担い手はいま、多くの  
主婦、高齢者、学生らが中心で、福  
祉、環境、文化のさまざまな分野で  
拡がりをみせつつある。

ひところボランティア活動と言  
えば、とかく社会的使命とか社会的  
貢献とかの概念で包まれ、なんと  
なく、「修身」ばかったが、最近も

つと伸び伸びと、自由なおおらかさ  
の目立つ活動が増えるようになつ  
た。

自分が参画した市民活動が一銭  
の収入につながらなくても、社会的  
には有用な労働なんだと感じた時、  
何と素晴らしいことか。

いま各地各所に目立ってきた市  
民活動は、やがて大きな社会変動の  
うねりとなって世の中を変えてい  
くだろう。

変えていく先は、二十一世紀のお  
そらく中心となる「市民社会」或い  
は「地域中心社会」の出現である。  
文明論で著名な木村尚三郎東大  
名誉教授はそんな社会を次のよう  
に展望している。

「二十一世紀の社会は、産業中心  
にすべてに機能性、効率性を優先さ  
せ、荒々しい男性の集団社会だつた  
二十世紀社会から、優しさとか美し  
さなどの感性、そして一人ひとりの  
個性を大事にする女性中心の社会  
になるだろう」

景気の低迷が十年も続いて、政府  
も産業界も元気がない。こんな状態  
がいつまで続くのかうんざりする  
ような世の中だが、よく見るとそん  
ななかでここ数年来新しい社会作  
りを目指す動きが各地各所に見ら  
れるようになった。政府や産業界に  
依存しない市民独自の活動である。

政府(第一セクター)や産業界(第  
二セクター)ではないという意味で、  
米国では総称して「第三セクター」、  
或いは「インデペンデント・セクター」  
と呼ばれているが、日本にもこのよ  
うな新しい動きが高まって来たこ  
とは喜ばしいことである。

第三セクターの担い手は、NP

O或いは市民団体であり、わが「北  
海道ファミリーハウス」活動もその

# 平成十五年度総会

北海道ファミリーハウスは、平成十二年十一月の設立以来手探り状態での活動を続けてきましたが、多くの方々のご支援・ご理解をいただき四期目を迎えることが出来ました。理事会・ボランティア一同感謝にたえません。

ただこうと、広報に力を入れ活動しました。ガイドブック(宿泊施設案内)550部とパンフレット約1万2千部を配布し、道内市町村の広報課及び社会福祉協議会には当会紹介の記事の掲載をお願いしました。ラジオや新聞をはじめ多くのマスコミにも取り上げられ、他のボランティア団体等からの情報も有意義なものでした。

それにより、利用希望者から事務

## 平成 15 年度 理事会名簿

理事長	松本 脩三 (北大名誉教授)
副理事長	作田 和幸 (㈱CWE 会長)
副理事長	金田 耕二 (北電ユニオン副委員長)
理事・事務局長	恵木 満春 (事務局)
理事	加藤 弦 (事務局)
理事	木梨 芳一 (UHB 社長)
理事	神戸 智子 (事務局)
理事	佐藤 元日出 (事務局)
理事	塩谷 えり子 (事務局)
理事	高光 美幸 (北電㈱ 人事部長)
理事	中西 千代美 (北大病院小児科師長)
理事	山澤 充雄 (北洋銀行常任監査役)
監事	井三 保一 (公認会計士)
監事	上浦 克之 (司法書士)
顧問	山本 克郎 (前理事長)
顧問	渡邊 一雄 (東京社会事業大学教授)
顧問	松宮 和男 (前事務局長)

< 退任理事 > (敬称略)  
任期満了に付き 5 人の理事が退任されました。  
お疲れ様でした。

小田野晃 齊藤美智子 菅野龍子  
長澤佳代 西川了生

局への問い合わせも増え、当会の活動の問題点や方向性が見えてきました。平成十五年度は、三年間の経験と実績を踏まえ、さらに活動の幅を広げていくため、長期的な展望に立つて事業を計画しました。

高度医療を行う総合病院の長期入院患者の付添い家族に便宜を図るため、市内の数病院については病院ごとに近隣ファミリーハウスをまとめたガイドブックを作成し、さらに、利用される患者家族に精神的に日常生活への支援をもつと具体的に出来るように、オーナーの方々と連携を強める必要性も感じております。心温まるボランティアサポートをめざし、具体的な活動を通し努力したいと思えます。たとえ、二・三方所であってもそのような活動のできる拠点を実現したいものです。

当会事業の趣旨を、ご理解いただき一層のご支援・ご理解をお願い致します。

### 平成十五年度 事業計画(要約)

- 一 ファミリーハウス利用者の利便性拡大のための事務局体制の変更をします。事務局移転及び事務所労働時間の変更をします。
- 二 「ファミリーハウス」(宿泊施設)の質的な向上を図るための作業へ着手する。
- 三 関係機関への積極的な広報活動を進め、各方面の意見を反映させる。
- 四 3周年記念事業としてチャリティコンサートを開催する。

会員数 (平成 15 年 3 月現在)	
正会員 =	30 名 112 口
賛助会員 =	957 名 1230 口
法人会員 =	6 社 10 口
合計	993 名 1352 口
「北海道ファミリーハウス」件数	
加入件数	36 軒
滞在室数	127 室

平成 14 年度 収支実績 及び 平成 15 年度 予算報告

(単位:円)

科 目		H14 年度 予算	H14 年度 実績	H15 年度 予算	
収入の部	収入	222,000	302,000	290,000	
	会費	1,056,000	1,234,000	1,100,000	
	助成金		590,000		
	助成金	500,000	911,000	100,000	
	雑収入		30,000	40,000	
支出の部	事業費	50	35	150,000	
	事業費	50	35	35	
	収入計 (A)	1,778,050	3,067,035	1,680,035	
	管理費	給料手当	30,000	30,000	
		旅費交通費	280,000	295,620	147,000
通信費		100,000	127,026	48,000	
什器備品		300,000	9,870	10,000	
消耗品		80,000	60,182	60,000	
水道光熱費		700,000	556,115	380,000	
図書費		55,000	13,271	25,000	
印刷費		10,000	11,949	10,000	
雑費		100,000	56,004	60,000	
総会費		160,000	86,914	120,000	
事業費	滞在施設支援費	20,000	17,480	20,000	
	通信費	100,000	159,601	333,000	
	会議費	80,000	23,478	45,000	
	イベント費	500,000	609,907	140,000	
支出計 (B)	2,515,000	2,057,417	1,930,000		
前年度繰越金 (C)	2,455,721	2,455,721	3,465,339		
差額 (A + C) - (B)	1,718,771	3,465,339	3,215,374		

ご支援ありがとうございました  
(平成十四年度関係分・敬称略)

助成金(順不同)  
マクドナルド財団 越智基金  
労働金庫 道新福祉振興基金  
日赤(赤い羽根募金)

寄付・寄贈(順不同)  
テクセルユニオン 北海道骨髄バンク 毎日新聞  
八百坂靖子様 武田重幸様  
永本美保子様 渡辺綾香様

広報誌掲載(順不同)  
小樽市 釧路市 奥尻町  
江別市社協

新聞他への掲載(順不同)  
北海道新聞 読売新聞 毎日新聞  
稚内プレス 医療新聞 難病連会報  
北電ユニオン会報 骨髄バンク会報  
北海道医師会報 時事ジャーナル 他

ラジオ  
FM札幌ラジオ放送 FMカロス札幌  
FMウイング インターネットラジオ  
ニヤビ

午後十時：就寝時間。

淡い光が眠りにつく人々を静かに包み込む中、病室を見回るナースの足音が、ヒタヒタと聞こえてくる。

光は非常口の緑のみ。静まり返って廊下には無機質な機械装置の音だけが、規則正しくリズムを刻んでいる。午前三時・・・。

どのくらい時間がたつたろう、押し殺したような囁く朝の挨拶がひとしきり続いた後、今日も明るいナースの声と柔らかな朝の光で、一日が始まる。

午前六時：検温の時間。

病院に休息は無く、患者さんにもまた休息はありません。

しかし、地元から遠く離れ、勝手の知れぬこの土地で、絶えること

の無い看病を続ける貴方にもまた、休息が無いことを私達は知っています。大切な人の回復だけを願います。

好きなコーヒーを絶つてまで、ただ過ぎゆくつらい日々を祈り続ける

貴方を、私達は知っています。ままならない病室で、経済的にも精神的にもヘトヘトになるまで看病している貴方に、私達が出来ること。それは、

疲れを癒す熱いお風呂と、清潔で柔らかなベット、そしてゆつたりとリラククスして頂

ける静かなやすらぎ空間を、提供させて頂くこと。

明日の笑顔、そして元気こそが私達の喜びです。ご無理をなさらぬように、大切な人が一日も早く回復されますようにと願いながら、私達は大きな手を広げお待ち致しております。

## 大家さん訪問2 北海道厚生年金会館

ウェルシティー札幌

ホテルフロント 齊藤 龍男

## ファミリーハウスの本

### 絵本「やさしさの木の下で」

文・くすもとみちこ

絵・つえだいずみ

発行・自由国民社

定価 1600円(消・サ別)

7歳で突然小児がんになり、つらい治療を乗り越えた男の子を主人公にファミリーハウスとの出会いの中で、病気になった子どもとその家族が直面する問題と、周りの人たちの優しさが患者さんやご家族にとって大きな支えになるということが書かれています。

### 「病院近くのわが家」

著者・岩井啓子

発行・自由国民社

定価 1200円(消・サ別)

小児がん等の難病と闘う子どもと付き添い家族のため、もう一つのわが家を」と日本のファミリーハウス運動が始まりました。ファミリーハウスの心が書かれています。

書店にないときには、事務局へご連絡下さい。

## 利用者アンケートを

### 集計しました

事務所へ、ファミリーハウス利用希望の問合せを頂いた方を中心に、アンケートを実施いたしました。

### 料金・設備・衛生面・対応につ

いてお聞きしたところ、概ね妥当又は良好のご回答を頂きました。ご意見・ご要望をお聞きしたところ、

「ファミリーハウス」の存在が十分知られていないという指摘が、

多くの方からありました。他に

も、貴重なご意見をいただき、これからの活動の参考とさせて頂いていただきます。また、私達への感謝の言葉を添えていただき、大変うれしく感じております。今後、アンケートを実施して、ご意見を活動に反映させていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

(新住所)

〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目  
北苑マンション407号室  
TEL 011-716-4161  
FAX 011-716-4162(新規)

(開設時間)

月・水・金(AM10時~PM16時)・・・ボランティア在室  
火・木(AM10時~PM16時)・・・転送電話による応答

### 事務局からの お知らせ

出来るようになりまして。  
ボランティアの在室時間は従  
来通りですので、事務所へお  
出での節は、事前にご一報頂  
けますようお願い致します。

事務局体制  
の整備に伴い  
事務所を移転  
しました、ま  
た、転送電話  
の設置により、  
週日電話での  
連絡はお受け

#### △ガイドブックの配布について△

利用者が滞在施設を探す手がかりになるガイドブック(宿泊案内)を作成しています。昨年は部数に限りがありご希望の方全員に差し上げることが出来ませんでした。

今年度は9月末の発行を予定しておりますが、昨年同様、医療・福祉関係機関を中心に配布する予定です。ご活用頂けますようお願いいたします。

個人でご希望の方は、送り先の住所・氏名・電話番号・利用目的及び「ガイドブック希望」と明記のうえ、FAX又はハガキで事務局までお申し込み下さい。

なお、業務の都合上、電話での受付はご容赦下さい。

#### △支援会員募集△

##### 年会費

個人会員 千円/一口から  
法人会員 一万円/一口から

#### △旭川医大の

##### ファミリーハウスについて△

旭川医大にはこれまで、ファミリーハウスはありませんでしたが、道北の遠隔地から入院する患者の多い同大の強い要望に答え、北海道電力㈱から旭川「五条クラブ」の一室を提供いただき、五月から稼働しています。ご希望の方は、左記までお問合せ下さい。

問合せ先 旭川医大小児科病棟  
代表(〇一六六)六五二二二一

#### △東京の特定の大学病院等で

##### 治療を受ける患者家族の方へ△

東京都内には、アフラック・ペアレントハウスを始め、十カ所余りのファミリーハウスがあります。一覧表をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。全国には、他にもファミリーハウスがあります。お問合せ下さい。

### 北海道ファミリーハウス

〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目 北苑マンション407

理事長 松本 脩三

TEL 011-716-4161 FAX 011-716-4162

振替先 郵便振替口座/02750-0-32974 口座名/北海道ファミハウス

Eメールアドレス: h-family@az.snowman.ne.jp

ホームページ http://www3.snowman.ne.jp/~h-family/

#### 編集後記

利用希望者からの問合せの電話の声は、いつも遠慮がちである。私達の活動が多くの人を知るところになれば、そのようなこともなくなるのかもしれない。